

06 2023年入島料収受実績

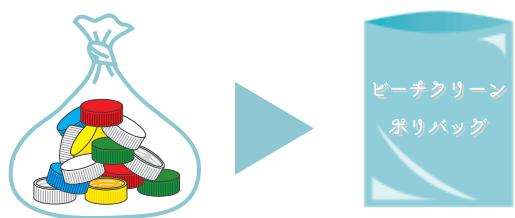
2023年1月～の入島料収受実績は下記になります。観光客増加に伴い若干の回復傾向を見せてますが、コロナ以前の数字には遠く及ばず、収受率10%前後と大変厳しい収受実績となっております。今後とも周知拡大に向けたご協力をよろしくお願いします。



お知らせ

ペットボトルキャップの回収にご協力ください

ご家庭で出たペットボトルのキャップを集めるとビーチクリーン用のポリバッグに生まれ変わります



回収ボックスは下記の場所に設置しています。

- ・財団事務所（旧ビジターセンター）・まちなみ館
- ・あいのた会館・いんのた会館・羽山会館

ご家庭で出たキャップのリサイクルにご協力をお願いいたします。



一般財団法人
竹富島地域自然資産財団

〒907-1101
沖縄県八重山郡竹富町字竹富 207-1
TEL:0980-85-2800 FAX:0980-85-2801
MAIL:info@taketomijima.okinawa

竹富島地域自然資産財団 季刊誌

てーどうん JOURNAL

2023.Sep. Vol.14 & 15.



© Maehara Motoo

竹富島では、そんなに遠くない昔。
あまり便利とは言えないけれど
自然体で暮らせる心豊かな時代がありました。

私たちは入島料で、島がいつの間にか失ってしまったもの、
忘れてしまったものを取り戻すべく活動を進めてまいります。

01 牧田遙香協力隊ごあいさつ

初めまして。牧田遙香（まきたはるか）と申します。8月より竹富町地域おこし協力隊に着任し、竹富島財団の一員として業務に携わらせていただいております。出身は千葉県で、大学も順天堂大学という千葉の田舎に通っていたため、生まれも育ちもずっと千葉です。新卒で東京にあるPR会社に入社し、一度仕事で役場の自然観光課を通じ、財団の皆さんとお仕事をさせていただいたことが協力隊となるきっかけになりました。幼少期からサッカー、高校時代はソフトボールも競技するなどスポーツが好きです。まだまだ至らないことばかりで、すでに多くの方にお世話になっておりますが、少しずつ島に馴染んでいけるよう精進いたします。これから、よろしくお願ひいたします。



02 雜穀座談会

大学教授や院生、農業に携わってきた島の方々を交えて、昔ながらのアワ、キビ、小麦について語る「雑穀座談会」を旧与那国家住宅で開催しました。民俗植物学を専門にする竹井教授（大阪学院大学）が1978年と99年に竹富島に来島した時の写真を使って、アワやキビ、タカキビ畑の栽培方法などの調査結果と考察を行いました。また院生の玉木さん（東京農業大学）は雑穀の復活栽培に取り組んでおり、故高嶺方祐氏から譲り受けた小麦（サイタマー）を神奈川県厚木市で増殖しており、その研究成果の報告を行いました。



03 古材の回収

石垣島で古材回収の活動を行いました。近年、古い家の解体の際にまだ使える古瓦や木材などがあるにも関わらず、一括で産業廃棄物として処理されてしまうケースが多くなっています。そんな中、石垣島にある琉球家屋の旧厩（きゅううまや）を解体するという情報が財団に入り「廃棄される前に！」と急いで駆けつけました。竹富島の大工さんにも参加していただき、一つ一つ確認しながら再利用可能な古瓦などの回収作業を行いました。回収した古材は石垣港から竹富島へ貨物船で送り島内の保管場所で管理をしています。今後は希望者を募り、活用にむけての作業を進めていきます。



04 奈良県立大学 フィールドワーク



奈良県立大学の学生さんとフィールドワークを行いました。竹富島の暮らしについての講座や環境問題についての話し合いをして、最後にビーチクリーン活動を行い、暑い中多くのゴミを回収していただきました。奈良県立大学の皆さん、また竹富島で待ってます。

05 港ゴミの分別



港に設置したゴミ箱の分別作業を島内事業所の皆さんと実施しました。1時間という限られた時間でしたが、ペットボトルゴミがみるみるうちに山をつくり、なんと合計58袋になりました。分別作業ご協力いただいた皆さんありがとうございました。